

安全データシート

N-(ジクロロフルオロメチルチオ)-N-(ジメチルアミノスルホニル)アニリン

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名	: N-(ジクロロフルオロメチルチオ)-N-(ジメチルアミノスルホニル)アニリン
CB番号	: CB0734712
CAS	: 1085-98-9
EINECS番号	: 214-118-7
同義語	: ジクロフルアニド

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: 殺菌剤。イチゴ、ブドウの灰色かび病、バラのうどんこ病防除に有効。木材防腐剤、ブルーステイン防止剤、下塗り剤および着色剤の調製、防カビ防藻塗料の調製、殺菌剤（失効農薬）
推奨されない用途	: なし

会社ID

会社名	: Chemicalbook
住所	: 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	: 400-158-6606

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日
H21.3.27、政府向けGHS分類ガイダンス(H20.9.5版)を使用

物理化学的危険性

- 金属腐食性物質 分類できない
- 有機過酸化物 分類対象外
- 酸化性固体 分類できない
- 酸化性液体 分類対象外
- 水反応可燃性化学品 分類対象外
- 自己発熱性化学品 分類できない
- 自然発火性固体 区分外
- 自然発火性液体 分類対象外
- 自己反応性化学品 分類できない
- 可燃性固体 分類できない
- 引火性液体 分類対象外

高圧ガス 分類対象外

支燃性・酸化性ガス類 分類対象外

可燃性・引火性エアゾール 分類対象外

可燃性・引火性ガス 分類対象外

火薬類 分類対象外

健康に対する有害性

吸引性呼吸器有害性 分類できない

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) 分類できない

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 分類できない

生殖毒性 区分2

発がん性 区分外

生殖細胞変異原性 分類できない

皮膚感作性 区分1

呼吸器感作性 分類できない

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2A

皮膚腐食性・刺激性 分類できない

急性毒性(吸入:ミスト) 分類対象外

急性毒性(吸入:粉じん) 区分4

急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない

急性毒性(吸入:ガス) 分類対象外

急性毒性(経皮) 区分外

急性毒性(経口) 区分外

環境に対する有害性

水生環境慢性有害性 分類できない

水生環境急性有害性 分類できない

2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

絵表示

GHS07	GHS09

注意喚起語

警告

危険有害性情報

H400 水生生物に非常に強い毒性。

H332 吸入すると有害。

H319 強い眼刺激。

H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

注意書き

安全対策

P280 保護手袋 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

P273 環境への放出を避けること。

P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

P271 屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。

P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

P261 粉じん / 煙 / ガス / ミスト / 蒸気 / スプレートの吸入を避けること。

応急措置

P391 漏出物を回収すること。

P337 + P313 眼の刺激が続く場合：医師の診察 / 手当てを受けること。

P333 + P313 皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診断 / 手当てを受けること。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P304 + P340 + P312 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。

P302 + P352 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。

廃棄

P501 内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

2.3 他の危険有害性

なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
化学特性(示性式、構造式 等)	: C ₉ H ₁₁ Cl ₂ FN ₂ O ₂ S ₂
分子量	: 333.23 g/mol
CAS番号	: 1085-98-9
EC番号	: 214-118-7
化審法官報公示番号	: 3-178
安衛法官報公示番号	: -

4. 応急措置

4.1 必要な応急手当

一般的アドバイス

この安全データシートを担当医に見せる。

吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。呼吸停止時は人工呼吸する。必要なら酸素を吸入させる。ただちに医師の診察を受けること。

皮膚に付着した場合

皮膚に接触した場合: すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。医師に相談する。

眼に入った場合

眼に触れた後は多量の水ですすぐこと。眼科医の診察を受けること。コンタクトレンズをはずす。

飲み込んだ場合

飲み込んだ後はただちに水を飲ませること(多くても2杯) 医師に相談する。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

使ってはならない消火剤

本物質/混合物に対する消火剤の制限なし

適切な消火剤

水 泡 二酸化炭素 (CO₂) 粉末

5.2 特有の危険有害性

炭素酸化物

窒素酸化物(NO_x)

硫黄酸化物

塩化水素ガス

フッ化水素

可燃性。

火災時に有害な燃焼ガスや蒸気を生じるおそれあり。

5.3 消防士へのアドバイス

自給式呼吸器がある場合のみ危険区域に留まってもよい。安全なゾーンまで離れるか適切な保護衣を着用して、皮膚に触れないようにすること。

5.4 詳細情報

ガス / 蒸気 / ミストを水スプレージェットで抑える（除去する）。消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

救急隊員以外への助言: ほこりを吸い込まないこと。触れないようにすること。十分な換気を確保する。危険なエリアから避難し、緊急時手順に従い、専門家に相談のこと個人保護については項目 8 を参照する。

6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水溝に蓋をすること。こぼれたら集めて結合させ、ポンプですくい取る。物質の制限があれば順守のこと (セクション 7、10参照) 乾燥剤で処置すること。正しく廃棄すること。関係エリアを清掃のこと。ほこりを生じないようにすること。

6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

安全取扱注意事項

換気フードの下で作業すること。吸い込まないこと。

衛生対策

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。注意事項は項目2.2を参照。

7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

保管条件

密閉のこと。乾燥。保管安定性推奨された保管温度2 - 8 °C湿気に反応する。 アルゴン下で貯蔵する。

7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 管理濃度

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

8.2 曝露防止

適切な技術的管理

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。

保護具

眼 / 顔面の保護

NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具

本推奨は、当社発行の安全データシートに記載されている製品およびその指定の使用法のみに適用される。溶解、他の物質との混合、および EN374 に記載の逸脱条件での使用については、

CE 認証手袋のサプライヤに問い合わせのこと (例. KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, Internet:

www.kcl.de)

フルコンタクト

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.11 mm

破過時間: 480 min

試験物質: KCL 741 Dermatrill® L

飛沫への接触

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.11 mm

破過時間: 480 min

試験物質: KCL 741 Dermatril® L

身体の保護

保護衣

呼吸用保護具

ほこりが生じた際に必要。

次の規格に準拠しているフィルター式呼吸器保護具を推奨します。DIN EN 143、DIN 14387お

よび使用済み呼吸器保護システムに関連する他の付属規格。

環境暴露の制御

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状	結晶状粉末
色	無色透明
臭い	無臭
pH	9 ~ 11
logPow=3.70 (実験値):SRC (access on Sep. 2008)	
データなし	
データなし	
データなし	
換算係数(25℃):1ppm=13.6mg/m ³ 、1mg/m ³ =0.0734ppm	
データなし	
データなし	
キシレンに可溶、メタノールに微溶:有機化合物辞典(1985)	
水溶解度 1.3 mg/L (20℃,実験値):SRC (access on Sep. 2008)	
データなし	
データなし	
データなし	
1.12E-007mmHg(25℃, 推定値) [換算値 0.0000149296Pa(25℃, 推定値)]:SRC (access on Sep. 2008)	
データなし	
データなし	
290℃:NITE総合検索 (access on Aug. 2008)	
192℃:NITE総合検索 (access on Aug. 2008)	
データなし	
105.3℃:Lide (88th, 2008)	
融点・凝固点	
105.3℃:Lide (88th, 2008)	

沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし

引火点

192℃:NITE総合検索 (access on Aug. 2008)

自然発火温度

290℃:NITE総合検索 (access on Aug. 2008)

燃焼性(固体、ガス)

データなし

爆発範囲

データなし

蒸気圧

1.12E-007mmHg(25℃, 推定値) [換算値 0.0000149296Pa(25℃, 推定値)]:SRC (access on Sep. 2008)

蒸気密度

データなし

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

比重(密度)

データなし

溶解度

キシレンに可溶、メタノールに微溶:有機化合物辞典(1985)

水溶解度 1.3 mg/L (20℃,実験値):SRC (access on Sep. 2008)

オクタノール・水分配係数

logPow=3.70 (実験値):SRC (access on Sep. 2008)

分解温度

データなし

粘度

データなし

粉じん爆発下限濃度

データなし

最小発火エネルギー

データなし

体積抵抗率(導電率)

データなし

その他

換算係数(25℃):1ppm=13.6mg/m³、1mg/m³=0.0734ppm

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性

通常想定される。

可燃性有機物質及び製剤に概ね該当：微細に分散し、舞い上がった場合、粉じん爆発を起こす可能性が

10.2 化学的安定性

標準的な大気条件(室温)で化学的に安定。

10.3 危険有害反応可能性

データなし

10.4 避けるべき条件

情報なし

10.5 混触危険物質

強酸化剤

10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットのLD50値 >5000 mg/kg bw (IUCLID (2000)) より、区分外とした。

経皮

ラットのLD50値 >5000 mg/kg bw (IUCLID (2000)) より、区分外とした。

吸入

吸入(粉じん): ラットのLC50値 1.25 mg/L (IUCLID (2000))は区分 4 に分類され、EU分類 Xn; R20(EU-Annex I (access on 8 2008))も区分4に該当する。(被験物質の飽和蒸気圧濃度は 2.01E-006 mg/L であり、試験濃度1.25mg/Lは飽和蒸気圧濃度を超える値であるから、粉じん・ミストと判断した。)

吸入(蒸気): データなし

吸入(ガス): GHSの定義における固体である。

皮膚腐食性・刺激性

ウサギを用いた試験により「軽度の刺激性」 (IUCLID (2000))とあるが、他に判断する十分なデータがないことから分類できないとした。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

ウサギを用いた試験により「中等度の刺激性」(IUCLID (2000))とあること、更に、EU分類が **Xi; R36** であることから区分 **2A** とした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性: モルモットを用いた3種類の方法による試験(Maximization test, Draize test, Open epicutaneous test)で「感作性」(IUCLID (2000))との結果に加え、EU分類が **Xi; R43**(EU-Annex I (access on 8 2008))であることから区分**1**とした。

呼吸器感作性:データなし

生殖細胞変異原性

in vivo変異原性試験の結果がなく、複数指標のin vitro変異原性試験の結果もないため分類できない。

発がん性

ラット(雄、雌)及びマウス(雄、雌)の2年間の混餌による発がん性試験において発がん性は認められていない (IUCLID (2000)、(HSDB (2003)))の記述より区分外とした。

生殖毒性

ラットの経口投与(混餌)による3世代繁殖試験において、雌雄成体の性機能および生殖能に対する影響は確認されていない(IUCLID (2000))。また、ラットの妊娠後6~15日に強制経口投与した発生毒性試験(IUCLID (2000))、ウサギの妊娠後6~18日に強制経口投与した発生毒性試験において胎仔毒性、催奇形性は認められていない(IUCLID (2000))との記載があるが、ウサギの妊娠後6~18日に強制経口投与した発生毒性試験において胚および胎仔への毒性のNOAELが記載され、中間用量であることから何らかの影響が認められると考え区分**2**とした。

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

データなし

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

判断する十分なデータがなく、分類できないとした。

吸引性呼吸器有害性

データなし

12. 環境影響情報

12.1 生態毒性

魚毒性

LC50 - *Leiostomus xanthurus* - 0.032 mg/l - 48.0 h

12.2 残留性・分解性

生分解性

結果: - 易分解性。

備考: データなし

12.3 生体蓄積性

データなし

12.4 土壤中の移動性

データなし

12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

製品

内容及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。

14. 輸送上の注意

14.1 国連番号

ADR/RID（陸上規制）：3077 IMDG（海上規制）：3077 IATA-DGR（航空規制）：3077

14.2 国連輸送名

IATA-DGR（航空規制）：Environmentally hazardous substance, solid, n.o.s. (Dichlofluanid)
(Dichlofluanid)

IMDG（海上規制）：ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.
フルアニド)

ADR/RID（陸上規制）：ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S. (ジクロ

14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID（陸上規制）：9 IMDG（海上規制）：9 IATA-DGR（航空規制）：9

14.4 容器等級

ADR/RID（陸上規制）：III IMDG（海上規制）：III IATA-DGR（航空規制）：III

14.5 環境危険有害性

該当

ADR/RID: 該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR（航空規制）：該当

14.6 特別の安全対策

14.7 混触危険物質

危険物（液体 >5Lまたは固体 >5kg）を有する内装容器を含む、単一容器および複合容器に必要とされる
EHSマーク(ADR 2.2.9.1.10, IMDGコード 2.10.3)5 kg / L 以下で、危険物クラス 9 に該当しないパッケージ
ジ

詳細情報

強酸化剤

15. 適用法令

16. その他の情報

略語と頭字語

EC50: 有効濃度 50%

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

LD50: 致死量 50%

LC50: 致死濃度 50%

IMDG: 国際海上危険物

IATA: 国際航空運送協会

参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>

【2】化学物質審査規制法（化審法） <https://www.env.go.jp>

【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>

【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） <https://www.nite.go.jp/>

【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>

【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>

【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>

【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageSize=0&request_locale=en

【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>

【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>

【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>

【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>

【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。